

令和7年6月第444回大野市議会定例会の結果について(教育委員会関係分)

資料I

○議案等の審査結果について(教育委員会関係分)

議案番号	議案名	結果	備考
議案第89号	令和7年度大野市一般会計補正予算(第1号)案	全会一致で可決	6/24可決
議案第90号	大野市子ども・子育て会議設置条例の一部を改正する条例案	全会一致で可決	6/24可決
議案第96号	有終南小学校長寿命化改良(統合)工事請負契約の締結について	全会一致で可決	6/10可決

OR7.6.24 総文厚生常任委員会委員長報告(教育委員会関係分要約)

項目	報告内容(要約)
小中学校による不登校の状況	<p>○令和6年度不登校率は、児童・生徒1000人中、19.6人であったが、令和5年度と比較して約20ポイント減の改善が見られたとの報告があり、委員から、改善理由はどこにあるのかとの質問があった。</p> <p>○理事者から、これまでの魅力ある学校づくりの取り組み成果が上がってきたことや、中学校再編を契機に生徒たちの「良い学校にしていこう」というさまざまな取り組みの結果として、特に中学校で大きく不登校率が減ったことにあると説明があった。</p>

OR7.6.24 予算委員会委員長報告(教育委員会関係分要約)

項目	報告内容(要約)
地場産プラスワン給食について	<p>○理事者から、学校給食ではこれまでも、地場産食材の使用に加え、米飯給食では大野市産米を使用し、また学校内の掲示板や給食時の校内放送での地元生産者の紹介や、生産者との交流会を行うなど、郷土を知り、食への理解が深まるよう食育に取り組んでおり、今回これらに地場産プラスワン給食を合わせて実施していく。また、地場産プラスワン給食の実施の際には、各担任教諭等から、プラスされた一品に</p>

	<p>関する食育指導を予定している。一般財源を追加して、地場産プラスワン給食の実施回数を拡充することは考えていないと説明があった。</p>
--	---

OR7.6.24こども政策・公共施設等改革特別委員会委員長報告（教育委員会関係分要約）

項目	報告内容（要約）
<p>多様化する子育て支援サービスの充実について</p>	<p>○市のホームページにおいて、子育て情報の掲載が分かりやすくなるよう工夫し「大野ですくすく子育て応援ポータル」としてリニューアルしたことや、「大野ですくすく子育て応援パッケージ」のポスターを作成し、市内の公共施設や医療機関、認定こども園などの55カ所に掲示し情報発信の強化に努めているとの報告があった。</p> <p>○委員から、市が認定する「子育て世代にやさしい企業」でのポスター掲示の確認や、子育て世代がいる企業などに、さまざまな形で結婚情報などを届ける手法を考えてはどうかとの発言があった。</p> <p>○理事者から、大野市こども・若者計画では、若者の交流促進や結婚支援に向けて、企業や団体の協力を得ながら進めていくこととしており子育て世代にやさしい企業にはポスター掲示に協力いただいている。7月には、若者の交流促進を図るための活動を開始する予定であり、協力いただく企業から活動メンバーの推薦をいただき、若者による若者のための企画を立案し、取り組みを進めていきたいとの説明があった。</p> <p>○OOSORAの利用状況については、5月末までに、子ども約1万6千人、大人約1万2700人の合計約2万8700人の利用があり、そのうち、市内利用者が約1万200人、市外利用者が約1万8500人であったとの報告があった。</p> <p>○利用傾向として、まちなかのイベント開催時には利用者数が増加していることや、冬場の利用は降雪量が多い日は少なく、気温が高い日には多いこと、3月の雨が降った日曜日には利用定員に近い利用があったなど、天候により利用数が増減する。</p> <p>○委員から、冬場の寒さへの対応と夏場の熱中症対策の状況についての確認すると、理事者から、休憩ス</p>

	<p>ペースにホットカーペットを、ベビールームにはエアコンを設置し寒さ対策を行ったこと、熱中症を防ぐため室内温度を細かに確認し、空調温度を調整することや、こまめな水分補給を呼び掛けることなどの対応を取っていくことを、指定管理者と協議していると答弁があった。</p> <p>○委員から、県内他自治体でも屋内型こどもの遊び場の整備が進んでおり、多目的ルームにおける飲食提供の再開など、市外利用者に何度も訪れてもらえるよう、指定管理者と協議いただきたいと意見があった。</p> <p>○おおの天空パークOSORAはオープンして約半年となるが、これから夏を迎え、利用環境の改善を求められることも考えられることから、利用者の声に耳を傾け、可能な範囲で早急な対応に努められたい。</p>
<p>ジェンダーギャップの解消に向けた施策強化の取組について</p>	<p>○女性リーダーの育成や男性の家事・介護参加を促進するセミナー等の実施、女性の意見を市政に反映するため市が設置する各種審議会等での女性委員登用率の向上、市が事務局を担う「大野男女共同参画ネットワーク」の組織強化に向けた加入促進などを図っていくと説明があった。</p> <p>○大野市男女共同参画推進委員会の委員改選において、一般公募委員に若者枠と女性枠を設け、現在、募集していることと、令和3年3月策定の「大野市男女共同参画プラン」は、本年度が中間年度であり、男女共同参画推進委員会の意見や第六次大野市総合計画後期基本計画の内容などを踏まえ、目標値などの見直しを図っていくと説明があった。</p> <p>○委員からは、委員会に若い方などが参加いただいても、意見が言いづらいことがあるのではないかと意見が述べられ、理事者から、若者や女性が意見を言いやすい会議の持ち方を考えていきたいと答弁があった。</p>

○令和7年6月第444回大野市議会定例会代表・一般質問（教育委員会関係分）

質問議員	質問内容	答弁内容(要約)【答弁者】
<p>6/9 (月) 林 順 和 議員 (一般)</p>	<p>(2)大野ならではの教育環境の充実について【教育長】【局長】</p> <p>①「未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち」を掲げて取り組む18年をつなぐ教育の進ちょくは【教育長】</p>	<p>○乳幼児期から高校卒業までの学びが、切れ目のない連続したものとなるように、18年をつなぐ教育に取り組み、優しく、賢く、たくましい大野人の育成に努めている。</p> <p>○幼児教育での遊びを通した学びと、学校教育での学びがより円滑に接続されるように、園長と校長とで構成する幼小連絡協議会や保育所や認定こども園の保育者と小学校教員が、互いに保育と教育の場を参観し交流する取組を行ってきた。</p> <p>○かねてより実施してきた「中学校区研究会」や「中学校・高等学校連絡協議会」といった連携会議で、校種間の情報交換やスムーズな連携・接続に向けて協議を重ねてきた。</p> <p>○毎年、学校の夏期休業期間に開催している「大野っ子育成の集い」は、大野市内で教育に従事する職員の指導観をそろえるために大変重要だと考えており、市内の小中学校だけでなく、保育所・認定こども園、高等学校及び特別支援学校の教職員にも参加を呼びかけ、教育講演会やクロスセッションなどを実施し、18年をつなぐ教育や連携のあり方について研修を行っている。</p> <p>○昨年度、18年をつなぐ教育に向けた総合的な連携強化のために、小・中・高等学校の校長による「結・協議会」を立ち上げた。従来の中学校・高等学校連絡協議会を小学校にまで広げ、大野市における小中高の連続性について検討している。</p> <p>○本年度は、公立保育園・民間認定こども園関係者の意見も反映させ、乳幼児期から成人として高校を卒業するまでの18年間をつなぐ取組の充実を目指している。</p> <p>○具体的に2つの取組を行う。1つ目に、学びに一貫性と連続性を持たせる取組を推進する。総合的な学習の時間や探究の時間を中心に、学びの連続性の維持や児童生徒の交流促進のための検討を行う。現在、多くの学校でふるさと大野を対象にした探究の取組が行われて</p>

		<p>いる。探究を通じた児童生徒の交流の中で学びが充実し、ふるさと大野に対する愛着や大野の良さへの理解が深まると考えている。2つ目に、キャリアパスポートの活用を推進する。児童生徒が自分の取組を振り返り、記録していく資料であるキャリアパスポートを充実させ、次の学年や進学先へ確実に引き継いでいく。児童生徒にとっては自身の成長や変容を実感できる自己理解のための資料であり、教職員にとっては児童生徒の理解を深める資料となり、一人一人を丁寧に見守ることができる。</p> <p>○今後は、結・協議会を核として、大野のコンパクトな地域性を最大限生かして18年をつなぐ教育を充実させていく。</p>
	<p>② アクティブ・チャイルド・プログラムの実施状況について 【局長】</p>	<p>○幼少期に運動をすることは、「楽しい・面白い」という体験として記憶に残り、将来的に運動量の増加につながると考えられており、県が定める幼児教育から小学校教育への接続カリキュラムにおいても、幼児期に育みたい資質・能力の1つとして「健康な心と体」があり、成長の過程において、「座る、立つなどの姿勢を維持し、バランスをとる動き」「走る、跳ぶなどの移動する動き」「持つ、投げるなどの用具を操作する動き」などを身につけることを目指している。</p> <p>○アクティブ・チャイルド・プログラムは、子どもたちが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得するため、楽しみながら積極的にからだを動かせる運動プログラムで、文部科学省から委託を受けた日本スポーツ協会が調査・研究・開発したものである。</p> <p>○アクティブ・チャイルド・プログラムの市内の実施状況は、民間認定こども園において、令和4年度に4園で、令和6年度に1園で、体験会が実施されている。</p> <p>○小学校においては、学習指導要領に基づき教育課程を編成するなかで、体育の授業にウォーミング・アップや体づくり運動などでその考え方や手法を取り入れた活動を行っている。</p> <p>○具体的には、ゲーム性を取り入れ楽しんでできる体づくり運動や、音楽に合わせてダンスを取り入れた体操などで、各小学校において工夫して取り組んでいる。</p> <p>○普及促進については、小中学校校長会や公立保育園・民間認定こども園合同園長会で活動事例を紹介したり、子どものスポーツ指導に携わる人を対象として、大野市出身のビーチバレ</p>

		<p>ーボール選手で、アクティブ・チャイルド・プログラム講師の幅口絵里香さんを講師に招いた講習会を開催したりし、普及を図っている。</p> <p>○小学生が体験する機会としては、「学びと遊びと体験の広場」において、昨年度の冬休みと春休みのカリキュラムに、講師を招きプログラムを取り入れている。</p> <p>○今後も、幼少期の子どもたちの成長に合わせた体力づくりや楽しい運動を行っていく。</p>
6/9	(1) 病児保育について【こども支援課長】	
(月) 伊 東 由 起 恵 議 員	① 他市での病児保育を利用するしかない中、本市の保護者にとって何か不都合はないのか	<p>○平成17年度より、保護者の子育てと就労の両立支援を目的として、病気や病気回復期のため集団保育が難しい児童を一時的に預かる病児保育を市内の医療機関に委託して実施してきた。</p> <p>○現在は、受入体制の確保の問題などから、市内でのサービスが提供できない状況にあり、利用を希望する保護者には、近隣の自治体や保護者の就労地の自治体にある病児保育施設を利用いただいている。</p> <p>○県内の他の自治体の病児保育を利用する場合、居住地による区別や制限を受けることなく、同じサービスが提供される。</p>
(一般)	② 市ホームページで病児保育実施施設の名称などを掲載してはどうか	<p>○市のホームページから利用可能施設を検索する場合、県の子育てサービス施設検索システムにリンクして検索いただくことにしていたが、必要な情報にたどりつきにくい部分もあったので、これまで利用されてきた施設を中心に施設名を掲載するなど、改善を図った。</p>
	③ 本市での病児保育実施に向け、現在の状況と今後の方針について	<p>○医療機関における事業実施が見込めないことから、民間認定こども園にも実施の可能性を広げて検討している。</p> <p>○課題としては、医療機関からの診療結果の伝達や病児保育に必要な設備の整備、看護師や保育士の確保、アプリを活用した予約機能の導入、病状が悪化した際の対応などが挙げられる。</p>

	○今後も課題を一つ一つ解決しながら慎重に進め、少しでも早く市内で病児保育を再開できるよう取り組んでいく。
(2) 授乳室での搾乳表示について【こども支援課長】	
① 本市の公共施設において、授乳室は何カ所あるのか	○授乳室は、プライバシーが確保され、落ち着いた環境で母親が乳児に授乳を行うための専用空間で、公共施設のうち授乳室のある施設は、おおの天空パークOSORA、地域子育て支援センター、市庁舎、結とぴあ、城下町東広場、道の駅越前おおの 荒島の郷の6施設である。
② 公共施設などの授乳室で搾乳できることを表示することに対する本市の見解は	○授乳室における搾乳表示は、授乳室を利用する母親と搾乳をする母親の両方にとって使いやすい環境を整えることにつながるので、市の施設の授乳室においては、搾乳にもご利用いただきたいと考えてる。
③ 市内で県作成の搾乳マークを取り入れているところは何か所あるか。	○現在、県が作成した搾乳マークを表示している市内の施設はないが、今後、公共施設の授乳室に表示するとともに、市内の民間施設にも周知を図っていく。
(3) 子どもの熱中症対策について【教育総務課長】	
② スポーツ少年団や中学生の地域クラブが活動する公共施設(学校グラウンドなど)における熱中対策の現状は。日陰をつくるなどの環境整備について市の見解を伺う	○学校の教育活動では、熱中症予防として、暑さ指数が31を超えた場合、または暑さ指数が31未満であっても熱中症警戒情報が発表されている場合は、原則、活動を中止するという基準を設け、部活動においても、この基準に準じて対応をしている。 ○スポーツ少年団や中学生が所属する地域クラブの活動においても、熱中症対策は非常に重要であり、それぞれの団体において、活動時間をなるべく涼しい時間にしたり、簡易テントの設置やグラウンド周辺の木陰、建物の軒下を利用し、こまめな休憩と水分補給を行うなどの工夫をしたりしていただいております。部活動地域移行検討委員会では、学校における熱中症予防について、改めて確認した。 ○地域移行したクラブへの支援としては、暑さ指数測定器やミスト発生器、日陰を作るためのブルーシートなどを購入した場合の補助を予定している。

		○今後も、スポーツ少年団や地域クラブのご意見をお聞きしながら熱中症対策に取り組み、連携して子どもたちの活動を支えていく
6/10	(2) 結ステーションエリアの公共施設の運営について【市長】	
(火) 木 戸 屋 八 代 実 議員 (一般)	① おおの天空パークOSORAの5月までの入場者数の詳細データはどうか	<p>○本年1月にオープンした「おおの天空パークOSORA」は、雨や雪の日にも子どもを思いきり遊ばせたいという子育て世代の希望を叶える施設であり、子どもの健全な育成や安心して子育てができる環境の充実を図ることを目的としている。</p> <p>○5月末までの入場者数は約2万8,700人で、その内訳は子どもが約1万6,000人、大人が約1万2,700人で、市内の利用者数は約1万200人、市外の利用者数は約1万8,500人で、約64パーセントとなっている。</p> <p>○利用者の年齢層については、集計が可能な市内の子ども約6,500人のうち未就学児が約3,200人、小学生が約3,300人で、ほぼ同程度となっている。</p> <p>○平日と土日、祝日を比較すると、平日の利用者は全体の約20パーセントとなっており、春休みの期間中は小学生の利用により多くなっている。</p> <p>○土日・祝日の利用は、前日までの事前予約制としていることから、天候による利用者数の増減はあまり感じ取れないものの、雨天の当日に予約したいという問い合わせが多かったことから、指定管理者の運用により当日予約ができるようになった。</p>
	② おおの天空パークOSORAの当初の目標に対して現状をどのように評価しているのか	<p>○当初の利用者数の目標は、施設整備基本計画策定時点において4万1,200人、月平均で3,400人と見込んだ。</p> <p>○実績としては、2月から5月までが月平均約6,700人であり、当初の見込みの約2倍の利用があった。</p> <p>○現状の評価としましては、特に市外からの利用が想定より多く、施設の最大の特長である広くて高い空間に大型タワー遊具や県内最大のネット遊具などが人気となっていること、県内でいち早く全天候型の遊び場をオープンさせたこと、冬期間のオープンが子どもをおもいっきり遊ばせたいと思う保護者ニーズと合致したことなどが、目標を大きく上回ったポイントである</p>

		<p>と考えている。</p> <p>○越前大野名水マラソンなどのイベント実施時にも増加が確認できている。</p> <p>○施設周辺の飲食店や商店などからは、OSORAオープン後に子ども連れの親子がまちなかに増えたという声も伺っており、まちなかでの施設整備効果が表れているものと感じている。</p> <p>○オープンから今日まで、たくさんの親子にご利用いただいております、引き続き愛着を持っていただくために、安全面を第一に考えている。</p> <p>○今後も利用者が安心して利用できるよう指定管理者と連携し、何度も行きたくなる魅力的な施設となるよう努めていく。</p>
<p>(1) 小・中学校での読書教育について【局長】</p>		
	<p>① 小・中学校の読書教育で、どのような点に力をいれているのか</p>	<p>○市は令和4年度から令和8年度までの5年間を計画期間とした「第四次大野市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動を推進している。</p> <p>○多くの小学校では、読書習慣を身につけるために、学校では読書タイムを設け、また、家庭との連携にも力を入れ、家族で読書を行う「親子読書」や「ファミリー読書」に取り組んでいる。</p> <p>○中学校では、校舎改修に合わせ、読書の場、学習の場、情報収集の場、憩いの場としての役割を併せ持った場所として図書室を整備した。</p> <p>○図書に親しむ機会を多く提供する場として、蔵書の充実を図るとともに、貸出や管理のためのシステムを導入し、利用しやすい環境を整えた。</p> <p>○書籍だけでなく新聞も読むことができ、児童生徒が活字に触れる機会の充実に努めている。</p>

<p>② 図書館や図書ボランティアとどのように連携し活用しているのか</p>	<p>○学校が、図書館や図書ボランティアと連携して、子どもたちに質の高い図書を提供し、いろいろな図書と出会う機会を創出することは、とても重要なことである。</p> <p>○子どもが図書と出会うためには、周囲の大人が橋渡しをする必要があり、図書館では、教員や図書ボランティア、保育士、保護者など、子どもと関わる方々に対して定期的に勉強会や研修会を開催し、人材育成を図っている。</p> <p>○図書館の司書は、各学校の要請に応じて学校へ出向き、テーマに沿って興味を引く図書を紹介する「ブックトーク」や読書へと誘うための「読み聞かせ」、昔話や創作の物語などを語る「おはなし会」など、さまざまな読書活動の支援を行っている。</p> <p>○学校は、図書館が子どもの発達段階に応じて選定した図書を、毎月、全小中学校に貸出を行う「おとしょちゃんのうきうきお届け便」を活用し、児童生徒が読書に親しむことのできる環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>○図書館で研修を受けた図書ボランティアの方々は、各学校に出向き、絵本の読み聞かせ会を実施している。</p> <p>○各小中学校の担当者が集まる学校図書館部会は、学校間での実践交流や図書館と連携した情報交換により、児童生徒の読書活動の充実を図っている。</p> <p>○校外学習の場としては、市内全小学校の2年生が図書館を訪れ、貸し出しカードを作ったり、図書を借りる体験を行ったりして、図書館に親しむ機会の提供と読書に親しむきっかけ作りを行っている。</p>
--	---

<p>③ 学校図書館の管理運営は誰が担っているか。学校司書の配置をどのように考えているか</p>	<p>○学校図書館法では、「学校には学校図書館の運営の改善及び向上を図り、その利用の一層の推進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員として学校司書を置くように努めなければならない。」と規定されている。</p> <p>○小中学校では、図書室の管理運営は、学校図書館司書教諭や図書館担当の教員が担っており、図書の新規購入や整理、新刊図書の紹介、季節に応じた配架や飾り付けなどを行っている。</p> <p>○教育委員会は現在、学校再編を機に総合的な教育環境の整備を進めており、まずは、いじめや不登校の対策など、児童生徒が心身共に安心と安全を確保できることを最優先に進めており、結の故郷教育支援員や教育相談員を各学校の実情に合わせて配置している。</p> <p>○このような状況を踏まえ、学校での読書の推進については、今後も、学校図書館司書教諭を中心に、学校図書館の充実を図るとともに、市図書館との連携をより密にし、取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>○学校司書の配置については、本市の実情に合ったより良い方法を研究していく。</p>
--	--